ト / 英字 UVWXYZ Y 「SEED X ASTRAY」

ドレッドノートガンダム / X アストレイ

機体名	ドレッドノート	画像
型式番号	YMF-X000A	
英語名	DREADNOUGHT GUNDAM	
所属	ザフト軍 ジャンク屋ギルド	
パイロット	ブレア・レヴェリー	
装甲材質		
装備	MA - M22Y ビームライフル×1 <u>ドラグーン</u> (分離式統合制御高速機動兵装群ネットワーク) システム×4MMI - GAU2 ピクウス 76 ミリ近 接防御機関砲×4MA - MV04 複合兵装防盾シ ステム XM1 プリスティスビームリーマー×2	
作品名	機動戦士ガンダム SEED X ASTRAY	
参考書籍	月刊ガンダムエース 2004 年 7 月号 No.23 特別付 録 機動戦士ガンダム SEED ASTRAY X ASTRAY COMPLETE DESIGN FILESEED - MSV 07 HG1/144 <u>ドレッドノートガンダム</u> キット解説書角川コミックス・エース 機動戦 士ガンダム SEED X ASTRAY 第 2 巻	

内容

強奪したガンダムを元に、ザフト軍が作り上げたガンダム試作機。

ゲイツを基本に開発され、核動力炉を持つため、ニュートロンジャマーキャンセラーも搭載されている。

特異な形状のバックパックにそのヒミツがありそうだ。

このドレッドノートの技術がフリーダムやジャスティスに流用されたと思われる。

なお、名前の「ドレッドノート」とは「勇敢な人」をさす。

内容 (COMPLETE DESIGN FILE)

ザフト軍が地球連合から奪取した 4 体のガンダム。

そこから得られた技術をもとに作った最初のテスト機 (プロト・ザフト・ガンダム)。

核エンジンとその使用を可能にするニュートロンジャマーキャンセラーを搭載している。

また、プロヴィデンスに搭載されたドラグーンシステムのテスト機でもある。

背中 of 巨大なドラグーンは、設計データのみが存在し、ザフトでは実機が製作されることはなかった。

内容 (キット解説書)

ザフトが地球連合から奪い取った技術をベースにクラーク、アジモフ、ハインラインの三設計局が共同で開発したモビルスーツ。

その最大の特徴は、ニュートロンジャマーキャンセラーの搭載によって核エンジンの使用が可能

になった点にある。

また、核エンジンのもたらした莫大なパワーは、ドラグーンシステムやPS（フェイズシフト）装甲などの大量に電力を消費する強力な装備の搭載をも可能にした。

その結果、ドレッドノートは後のガンダム系モビルスーツ（フリーダム、ジャスティス、リジェネレート、プロヴィデンス）につながる新テクノロジーを満載した実験的機体となったのである。

本機のディテールは、この機体がゲイツと、ガンダム系機の両方の特徴を兼ね備えた過渡期のモデルであることを示している。

ドレッドノートとは「勇敢な者」を意味する言葉である。

その命名理念は、公式には「プラントの守護を担う勇敢な機体であれ」との願いが込められていると伝えられている。

しかし実際の開発現場では、危険をともなう核エンジンを搭載したことでパイロットの負うリスクが増したことから、「こんな機体に乗る者は勇敢な人物だ」という冗談めかした理由から名付けられたという説が好んで伝えられた。

所期の目標を果たしたドレッドノートは解体調査後、廃棄処分されることになった。

しかし大戦末期、ジャンク屋ギルドの機体、Xアストレイとして忽然と再登場する。

「勇敢な者」の生涯は、数奇な運命に彩られていた。

備考

ゲイツの頭部

ロウの手に渡った時、頭部がなかったため、急遽ゲイツの頭部を移植し起動させた。

この状態では核エンジンは使用できない。

ドラグーン・システム

ザフトではデータのみで実物が製作されることは無かったが、バルトフェルドからデータを譲り受けたロウが Rond・ミナ・サハクの好意によりオーブの宇宙ステーション「アメノミハシラ」の工場を利用して製作している。

Xアストレイ

命名はロウ・ギュール。

巨大な X 字状のドラグーン・システムを背負っているのと、人殺しの道具である兵器でありながら使い次第で人を救う事もできるとの見解から ASTRAY =「王道ではない」から名付けられた。

スペック

項目	内容
全高	18.21m
頭頂高	
全長	
本体重量	

重量	67.50t (ドラグーンシステム含まず)
ジェネレーター出力	
スラスタ-推力	
センサ有効半径	